

郷土館 発 鐵道のお話 V

津具の文化資料展示センターに『中◇鐵道伊那及足助線踏測平面略圖』があり、その中に書かれている鐵道誘致文を紹介します。百三十年ぐらい前の文章ですが、全文を紹介します。(本文の趣旨を踏まえ読みやすい漢字と表現に直してあります)

本線は信州飯田町より駒場に出で和合、富草及旦開等の諸村を過ぎ三州上津具に到り稲橋及足助を経て名古屋に達する線路にして(仮に甲路線と称す)飯田町以東は伊那線の本曾線に比し優良なるは既に世人の許す処なるを以てあえてここでは言わない本線路を以て彼の飯田町より駒場に出て濃州中津川及多治見を経て名古屋に達する線路(仮に乙路線と称す)に比較し其利害得失を考えれば則ち工事の難易、積雪の深淺、物産の多寡、国防上の利害はもとより議論も必要ないそもそも信州の地たるや高い山があり海からもすこぶる遠いそれゆえに其衣食の料に供するものは常に北半國は越後の輸送を待ち南半國は尾三遠の供給により尾州名古屋は実に其需給上焦点なる市場たり之に次ぐに遠州浜松三州豊橋及岡崎がある上津具は伊那街道中信州に入る咽喉に当り遠三物貨輸送の便路

にして稻橋は飯田街道中の関門に当り尾三物貨輸送の便路なりことに三河國は東海道の中央にあり西に矢作川がありその河口は武豊港なり以て軍艦を停泊させられるまた足助及岡崎の要区之に属し東に豊川があり河口は前芝港なりすでに商船が停泊でき新城及豊橋の要区之に属し東西両京(東京・京都)に差し迫ったことがあれば対応できる要地たれば則ち中央鉄道は最良最優なる本線路に沿ふて布設しなければならぬ本線路に沿ふて布設する場合物貨が西にある場合は武豊港より輸送し東にある場合には前芝港より輸送し輸送する物貨がやや遠距離にある場合遠州掛塚港より輸送する物貨皆ことごとく本線に連接し經濟上農工商の三業を振起せしむ國防上陸海軍の連絡を敏活に行うことができる最良最要なる線路である今試みに一二の利害得失を左にあげん

国防上ノ利害

一 甲線路を以て乙線路に比べれば沿道に人が多く住みかつ武豊及前芝両港を有すれば則ち一朝行軍の際宿泊徴発等の便利はもちろん只兵器兵糧の海陸運輸上非常に便利なるのみならず名古屋師團に通し豊橋兵營に近く遠州地方へ行軍上の至便を有しことに良軍港の武豊港に於いて陸海兩軍の連絡最も至便なり

積雪ノ深淺

一 甲線路中寒烈の地に於いて積雪の量二尺未満であるが乙線路中寒烈の地に於ける積雪の量は五尺以上になるこのことを比べれば乙線路が甲線路に及ばないことがわかる

産業上ノ得失

一 甲線路沿道地方皆物産に富みかつ開拓すべき土地があり繁殖すべき物産多く農工商三業および牧畜の進歩もみられる之を以て乙線路のやせた土で木もない様子にして興すべき物産が無いのに比べればその優劣は識者に聞くまでもなく明らかである

運輸上ノ便否

一 甲線路の西に武豊港あり東に前芝港ありやや遠距離に遠州掛塚港があり物貨運輸に対応できるを以て乙線路の運輸上便利を有せざるものに比べればずいぶん便利だとわかる

明治二十年代の文章ですが、日本の物流や地域の産業・商業をはじめ国防までを踏まえた内容になっています。その文章や地図に『上津具』や『納庫』『稻橋』があり、明治維新がこの地域も無関係ではなかったことを感じさせてくれます。

(奥三河郷土館学芸員
渡邊 俊也)

※郷土館二階の無料エリアに拡大地図を展示してあります。
ご覧ください。

